



和泉観ボラだより 第10号



2014.12 発行

〒594-0041 和泉市いぶき野五丁目1-1 (和泉中央駅構内) 和泉市いづみの国観光おもてなし処気付「和泉観光ボランティアクラブ」

TEL/FAX : 0725 (56) 5200 E-mail bwz11423@nifty.com <http://blog.goo.ne.jp/kankou-izumi/>

泉北・泉南地域の地質・地形 (II)

(前号のあらまし) 和泉市役所から南の方を望むと、遠くに和泉山脈が連なり、その手前に和泉山脈より低めの山(前山)があり、さらに田園地域との間に丘陵地帯が広がっています。これらの地形を地質との関係で考察しています。この地域ではまず前山があり、その北側に地殻変動でできた窪地(堆積盆)に浸食によって前山などの土砂が1200万年もかけて厚く堆積しました。今からおおよそ7000万年前に大きな地殻変動があり、堆積した地層が隆起して和泉山脈を形成しました。新生代になると、和泉山脈と前山のさらに北側に堆積盆が形成され、周囲の山々から土砂が供給されて、約150万年間堆積が続き、その後隆起してできた地層を大阪層群といい、大阪平野から大阪湾に掛けて広く覆っています。大阪層群について今号では詳しくお話しします。

太古の時代からあった大阪層群

【大阪層群の広がり】 大阪層群は、太平洋戦争終結後の天然ガス探査がきっかけで発見されたと前述しました。千里丘陵の地層を調査中に、厚さ数m~10m程度の同じような砂礫層や粘土層が重なる中にアズキ色をした30cmほどの粗粒の層が目にとまりました。顕微鏡で観察すると火山灰の層であることがわかりました。その色調がアズキに似ていたので、「アズキ火山灰層」と名付けられました。火山灰は同時に広い範囲に堆積するため、離れた地層を比較するのにたいそう役に立つ地層で、このような層を「鍵層」といいます。この火山灰は約90万年前九州の耶馬溪にあった猪牟田カルデラから噴出したことがわかってきました。大阪層群には40層以上の火山灰層が見つかっており、大阪の他の地域についてもこれらの鍵層を手掛かりに調べると、大阪層群は千里丘陵をはじめ、枚方丘陵や泉北・泉南丘陵に広く分布していることや、さらに堆積した順序もわかり、この地域の地質図も描かれました。

堆積の時期については、産出する化石から第3紀末から第4紀初め(約300万年前~数十万年前)にかけて堆積したものと考えられています。植物ではセコイアやミズカシワの化石や花粉が含まれ、又平成2年には府立富田林高校理化部によって石川の河床からゾウや小型哺乳類の足跡化石が発見され、当時の動植物の様子も次第に明らかになってきました。泉北地域では光明池地区やトリヴェール地区に大阪層群の露頭を見ることが出来ます。

大阪層群を構成する地層を調べると、化石や粘土層の分析から淡水に堆積したと思われる層と、海水中で堆積したらしい層があります。これは堆積盆の水が雨などによる淡水であったり、海水が流入したりしたことを示しています。丁度大阪層群が堆積を始めた300万年前頃から六甲変動と呼ばれる地殻変動が起こり、堆積中の大阪層群にも褶曲や断層が生じ、海から海水が流入することがたびたびあったからだと考えられています。特に50万年前頃には変動が大きくなり、六甲山を形成したり、大阪層群の地層を持ち上げました。その動きは今も続いているそうです。今の大阪層群は大阪湾の海底から標高300mくらいまでに分布し、泉北・泉南地域では大阪湾の方向に北北西に3~5°ゆるく傾斜し、基盤の和泉山脈に近づくほど急になっています。

【段丘と海退・海進】 大阪層群の前縁部には高位段丘が、和泉山脈から北流する河川の丘陵に近い幅の広い谷に沿い中位段丘、低位段丘が大阪層群を覆って分布しています。和泉市信太山付近に見られる平坦な面は、高位段丘です。砂礫層で構成され粘土質で、表層は赤い色を呈しています。槇尾川の中流沿いに河床から10~20mに中位段丘が見られます。この層は大阪市の上町台地につながっています。岸和田市岸城町のこの層からナウマン象の上顎臼歯の化石が見つかっています。槇尾川沿いの和泉市黒石町、東阪本町、山手町や牛滝川などの河床から10m以下に低位段丘が発達しています。

大阪層群の丘陵の変遷



大阪層群の丘陵（光明池地区）稜線が段丘面、住宅など建つ。北北西に緩やかに傾斜する。（写真）

太古より地球は寒暖を繰り返してきました。大阪層群がほぼ今と同じような地形になってからも3回も地球は氷河に覆われました。その時期を氷河期と呼びます。この時期には氷河が発達して海水面は低下し、氷河期が終わり、温暖期になると海水面は上昇します。この時期を間氷期といいます。氷期に海面が低下すると海岸線は遙か沖合まで後退します。このことを海退といいます。間氷期には海面は上昇して海岸線は陸地に進んできます。これを海進といいます。およそ260万年前に急激に寒冷化して氷河が発達し、70万年前からは氷河期がおよそ10万年周期で訪れるようになりました。氷河期には海水準が100～150mも低下するので段丘が形成されます。泉北・泉南地域にできた段丘も土地の隆起と海退・海進の繰り返しによって形成されたと考えられています。

海岸段丘を実感するために、国道480号線阪本町から伏屋町に至るコースを歩いてみましょう。阪本町は低位段丘面にできた町です。郷荘神社あたりから登り坂になります。このあたりが中位段丘の海食崖（段丘崖）ですが、道路が整備され実感はありません。やがて平坦な場所に着きます。ここは中位段丘面です。さらに高位段丘への崖（道路）をのぼると、杉谷馬事公苑付近で狭い

平坦面があり、すぐ登り坂になって、伏屋町の平坦面に到着します。これらが高位段丘面で、高位段丘が2段なっていることがわかります。以上、和泉の地質・地形の概要を述べました。参考になればうれしく思います。（Ben）

地質時代			地質・地形の推移
新 生 代	新 第 三 紀	5.2 鮮 新 世	大阪層群堆積 (約300万年前?～50万年前)
		1.54 洪 積 世	前期 六甲変動～50万年前頃 六甲山・大阪層群隆起
	中期 高位段丘堆積 (六甲変動最盛期)		
	後期 中位段丘堆積 低位段丘堆積		
0.01 完 新 世 0	沖 積 世	沖積層堆積	

※数字は100万年前を表す



段丘地形（信太山地区）海に向かって階段状に傾斜。段丘面には高層住宅などが建つ。手前に向かって建物は階段状に上から下にさがっている。（写真）

「和泉観ボラだより9号～10号」2回にわたって、「和泉の地質・地形」について特集してきました。ちょっと専門的な題材ではありましたが、和泉の歴史を違った角度から読み取っていただけたのではないかと思います。10号を読まれた方で、まだ9号をご覧になっていないかたは、「和泉市いずみの国の観光おもてなし処」にまだ多少の在庫がありますので、お問合わせください。「観ボラだより」は不定期ですが、年に数号発行しており、「和泉市いずみの国観光おもてなし処」や市内公共機関等においています。

初めて挑戦した“出前講座”顛末記



和泉観光ボランティアクラブ（通称 観ボラ）は、クラブ設立10年目にして出前講座に挑戦することになりました。早速「納花いきいきサロン」からオファーを戴きました。事前打ち合わせにて、ご希望を伺って、急速に話は進みました。出前講座協力希望者を募り、参加できるメンバーが集まって、「何ができるか」を一緒に考えました。その結果、「パワーポイントを使った市内の観光スポット紹介」と「民話や伝説を寸劇で表現」の二本立てで行こうと案がまとまりました。観光スポット紹介グループは手慣れたもので、座学として一方的に伝えるのではなく「観ボラメンバーと納花いきいきサロンの皆さんと会話のキャッチボールをしながら紹介をしよう」と考えました。寸劇グループは「観たことあるけどやったことあれへん…」の状態で配役決め、「なんとかなるはず…」という前向きな『観ボラ劇団』が生まれました。「現代風・貧女の一灯」の脚本担当者は速やかに台本を作り、毎日忙しく過ごしているメンバーが寸劇練習のため集まれる時刻は午後6時以降。本読みを省いて、いきなりの通し稽古でした。稽古を重ねるたびに「良くなった…」「ええやんか…」と褒め合いながら、役になり切った演技への挑戦は続けました。本番当日、納花町の会長さんの簡潔なご挨拶でスタートし、和泉市の観光スポット紹介では、スクリーンの風景が変わるたびに

「あっ、あの場所や」「そうやそうや」「ここは、よう遊びに行ったとこや」「行ったことないけどええところやなあ〜」と、いろいろな声が聴こえてきました。

控室では寸劇直前のわずかな時間で、納花のボランティアの皆さんを前に最後の稽古をしました。セリフが出なかったり、演技が止まったり…そんな控室では、役者の焦り顔とボランティアさんの心配顔がありましたが、「時間で〜す」の呼び出しで出演者は会場へ向かいました。

手作り工作「ご挨拶キツツキ」で楽しんでもらった後、観ボラ劇団の寸劇「貧女の一灯」を「納花いきいきサロン」の皆さんが期待の眼差しで迎えて下さったように思いました。笑顔と拍手と笑いに包まれ、絶好調で演技切って控室に戻りました。稽古と本番をご覧になった納花のボランティアさんは、控室に入るなり「最高やっ、100点満点、いやいや120点や」、稽古しかご覧になっていないボランティアさんは「本番には強いんやっ」「見たかったなあ〜」と温かな言葉をかけてくださいました。予想を超える笑い拍手に観ボラメンバーは満面の笑みでした。観ボラの初めてのチャレンジは笑顔いっぱいのスタートになりました。



しばらくしてから、「光明台南いきいきサロン」で和泉の観光名所の説明をさせていただく機会がありました。パソコン（パワーポイント）を活用しての観光案内。西国三十三ヶ所巡り四番札所「槇尾山施福寺」、歴史深い幽玄古寺の「松尾寺」、雷井戸伝説が残る桑原町（「くわばらくわばら」の雷避けおまじない言葉発祥の地・和泉市の花「水仙」伝承地）の「西福寺」を説明しました。「へー！」「ハァー！」「なるほど！」と驚きの声も聞かれ、一心にメモをとる方もおられました。みなさんにノリノリだったので喜んでいただけたように思います。



引きつづき、悲しくも心温まる「貧女の一灯」という和泉の伝承民話を寸劇して披露させていただきました。脚本から振付、衣裳、小道具等、みな手作りで、出演者も演技の素人たちです。2回目ということもあり、衣裳がちょっとだけレベルアップ。

「チーン！」… 別れの場面では、タイミングの良い手持ち鐘の音に会場では笑い声が響きました。笑いあり、拍手あり、「えっ！」「なに？」という驚き顔ありのワンシーン。何回にもわたる夜遅くまでの練習の成果に、寸劇に関わったメンバー全員が満面の笑みを浮かべていました。

「観ボラ演劇集団？」



観光ガイドへのお問合わせ先「和泉市いずみの国観光おもてなし処」

開所時間・10:00～18:00 定休日・月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始

電話・FAX 0725 - 56 - 5200



和泉弥生ロマンツデーウォーク (10/18~19)



和泉弥生ロマンツデーウォーク、今年は春日大社で立番を担当。立ち寄る人々は40kmと20kmコースの参加者。神の祠を楽しむと言うよりハイスピードで駆け抜けるようだった。

春日神社第一鳥居の道路前で春日大社を通り抜ける人の神社内誘導役を務めた。この辺りは8km地点ぐらいになるのだろうか？40kmに参加したトップは驚くほどのスピードでやってきたのには、ただただ驚くばかりだった。和泉中央駅を出発して1時間弱というタイムに絶句にも近い驚きの一語。なかには神社の鳥居の写真を撮影して進む人もいるが、黙々と前へ前

へと向かってひたすら歩いている人が多い。「おはようございます」「境内はこちらです」と声をかけるのが精一杯だった。20kmコースに参加した人たちは、少し気持ちに余裕が感じられる歩き方のように思えた。

左の写真は40km参加者 下の写真は20km参加者

春日神社について説明しようと思っただけでも、ひたすら前へ前へと進んでいく参加者にはガイド役は無用の長物の感があり、自己嫌悪に文字がちらついた。

観ボラ（和泉観光ボランティアクラブ）メンバーとして、雷井戸伝説の西福寺と春日神社の案内を経験して、和泉弥生ロマンツデーウォークは晴天で幕を閉じた。



和泉観光ボランティアクラブ 日誌 側川(そばがわ)散策・清水(きよず)滝 2014. 11. 10

和泉観光ボランティアクラブの11月の研修は「側川散策・清水滝」でした。前日はかなりの雨でしたが、研修当日は秋晴れでした。だんだんと木々が色づき、空気も美味しく、短い距離でしたが歩きごたえがありました。(公共機関を利用する場合は南海バス「側川」から徒歩になります、本数が少なくバス停からはかなりの距離になるので、ご注意ください。)

五ッ辻経由を選んだメンバー3名は、80代のベテランクラブ員を筆頭になかなかの個性的メンバーで、本当にマイペースで一歩一歩進みながらも「清水滝」へ辿りつくことができました。ロープを使っただけの登り降りにはなかなかのスリルでした。



清水(きよず)の滝へのルートは「開明の滝」を経由のコースと五ッ辻経由のコースがありますが、どちらも危険を伴うコースなので、看板には「清水の滝危険 転落事故多発 和泉消防本部」「注意 入山者の皆さまへ この先、清水滝の山道は大変危険であり、通行が困難です。万が一、入山されて事故が発生した場合、自己責任となりますので、必ず注意書きを厳守してください 平成19年9月 和泉市国定公園保全対策協議会」と書かれています。左「側川」地点の看板の注意書きは下の方にあり見落としがちなので注意!

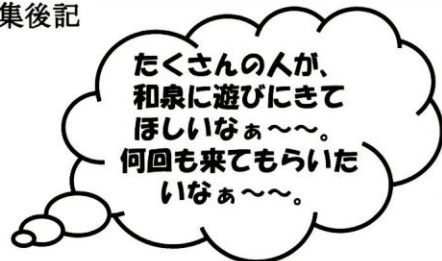
和泉を知るためのお薦めの1冊④ 和泉 Walker



和泉市のいろいろな情報が一冊の本になり、10月にKADOKAWAより発刊されました。

815円(税別) A4サイズで、発売場所は和泉市を中心とした各書店やコンビニまたは関西圏の大型書店、Amazonなどです。

編集後記



夏から秋にかけて、和泉はイベントがいっぱい。コストコ、ららぽーともオープン。



少し落ち着いた頃に、訪ねてみようかなと思っています。松尾寺、側川、槇尾山、黒鳥山公園、鶴山台センター周辺など、楓、桜、銀杏、けやきなどの木々が色づいています。まだまだ名所はいっぱいあると思いますが、日本の四季の移り変わりを和泉でも自然と歴史の中で感じられるんですね。(Maki)